

## カミワザ的週報と宝物的週報

～ 仙台教会の歴史シリーズ その 14 ～

小林孝男

### 1. 仙台教会の週報の成長

仙台教会の週報は、キリスト教文化センター主催「教会週報・月報コンクール」(1975年)で特選に入賞しました<sup>1</sup>。それは天野五郎牧師が生み出した独特の週報スタイルと、カミワザ的な孔版技術の賜物でした。教会員は毎週「週報」を読むのを楽しみにしていたものです。

もちろん簡単にこの週報スタイルが出来上がったわけではありません。このスタイルが生み出されるまでには、試行錯誤が色々と繰り返されてきました。天野牧師が福島教会から仙台教会へ赴任したのは1963年7月です。当時、仙台教会の週報を作成していたのは、東北大学の学生だった教会員の渡邊淳一さん、そして翌年からはその奉仕を青年会が引き継ぎ、更に1965年7月からは天野牧師が自ら担当するようになります<sup>2</sup>。その頃の仙台教会の週報は、紙面としてはB6タテ×4頁(B5判用紙ヨコ二つ折り・横書き左開き)でした。1頁目の表紙と4頁目の集会案内は固定した内容ですので、その頁をあらかじめ印刷した用紙が大量に準備されていました。週報担当者は2～3頁部分に掲載する礼拝プログラムや報告などを、ヤスリ版の上のせたロウ原紙に、鉄筆でガリガリと音をたてながら書き、すでに半分印刷されている用紙に謄写版で刷り上げ、週報を完成させたわけです。

当然、天野牧師が週報作成担当を引き継いだ当初は、それを踏襲したはずですが。しかし、固定部分を印刷していた用紙が切れたのを機会に、同師はこれまで横書きだった週報紙面を、B6タテ×4頁(B5判用紙ヨコ二つ折り・縦書き右開き)に変更し<sup>3</sup>、内容にも工夫を施しました。たとえば、1頁目には先週の説教要旨、2頁目は集会案内や礼拝プログラムや報告事項、3頁目は証し等のスペースとして自由に使い、4頁目は牧会通信といった具合です。また、天野牧師の孔版技術は芸術的と言ってもいいほど完成度の高いものでしたので、これによって仙台教会の週報は、見た目にも内容的にも格段と豊かなものとなっていきました。

## 2. 読める週報、読みたくなる週報

天野牧師のすごいところは、常により良い週報を目指し「こうしてみてもどうだろう」、と思ったことは躊躇することなく試したことです。週報の内容や構成だけではなく、スタイルや技術的なことも含めてそれは言えます。人並外れた孔版技術を身に付けていながら、1967、68年頃には和文タイプライター<sup>4</sup>に挑戦し、それを使って週報を作成したこともありました。オフセット印刷などという便利な機器にも関心を寄せ購入しています<sup>5</sup>。B5判用紙をヨコに用い縦書きで表面（おもてめん）だけの週報スタイルにしてみたり、また最初のスタイルに戻してみたりと、試行錯誤を繰り返すことを恐れませんでした。B4判用紙をタテに裁断し二つ折りする様式、つまり紙面としては、「B6ヨコ×4頁・横書き左開き」という独特の週報スタイルを編み出したのは1970年後半ですが、その後もページ数を倍増し8頁にしてみたりと工夫を怠りませんでした<sup>6</sup>。豊かな内容を盛り込んでいたために、どうしてもかなり小さな文字になってしまいます。そのためページ数を増やすことで文字の大きさを改善しようとしたのです。天野牧師が「読める週報、読みたくなる週報」を目指し、週報作りに愛と情熱を注ぎこんだのは、「週報は伝道・牧会の力強いツールだ」という確信があったからなのでしょう。

## 3. 共同作品としての週報へ

1984年12月に金子純雄牧師が仙台教会に着任します。金子時代においても天野スタイルの週報を継承したいと考え、私は使命感をもって作成担当を買って出て何ヵ月間か挑戦しました。しかし、天野式週報はカミワザ的な孔版技術が伴ってこそ生きたものになりますし、読み易いものにもなります。残念ながらその技術が伴わない以上、まずは読み易さを優先すべきであろうとの判断となり、1985年10月から紙面をB5タテ×4頁（B4判用紙ヨコ二つ折り・横書き左開き）に変更することになりました<sup>7</sup>。変更に至る伏線としては、天野牧師が退任し金子牧師を迎えるまでの専任牧師不在期間、執事が毎週かわるがわる天野式週報スタイルに倣って週報を作ったのですが、お一人の執事は身体的な事情で細かな作業が困難なため、B4判用紙を使用し、週報紙面をB5タテ×4頁で作らざるを得ませんでした。これに対して教会員の間では、「この方がずっと読み易い」という声がささやかれていたのです。

その後ワープロやパソコンの発達で、週報作りも大きく様変わりしていきます。

1987年1月からは全頁ワープロで作成するようになり、やがてパソコン時代の到来で週報作成担当者も向井田洋さん（1993～2011年）<sup>8</sup>、渡邊義人さん（2011年～現在）<sup>9</sup>と変わり、また2009年1月からは、週報紙面はA4タテ×4頁（A3判用紙ヨコ二つ折り・横書き左開き）に変更されます。

さて、天野時代の週報はカミワザ的週報でしたが、それと比べても現在の週報は優るとも劣りません。それは何故かといえば、現在の週報は、大勢の教会員が力を合わせて毎週作り上げている「共同作品」だからです。礼拝プログラムや報告の原稿を整える牧師、北四番丁通信の執筆を担当する多くの教会員、毎週献金処理を行っている財務委員の面々（この働きがなければ週報に献金報告が掲載できません）、週報の原版をパソコンで作る担当者、緻密な校正を担当する教会員の面々、印刷をして週報ボックスへ配布する方、出来立ての週報を教会に来ることのできない会員宅へお届けする方、等々。現在の仙台教会の週報は共同作品として作り上げられ、用いられています。この点において私たちの教会の週報は、あの「カミワザ的週報」にも決して引けを取ることのない「宝物的週報」となっているのです。

---

<sup>1</sup> 週報(1975/01/26、1979/11/11)

<sup>2</sup> 復刻版週報(2009/06/04\_週報及び復刻版について)、このファイルに週報に関する5/15付のコメントと6/4付のコメントを見ることができる。

<sup>3</sup> 同上

<sup>4</sup> 入手経緯は不明

<sup>5</sup> 週報(1980/09/21)、幼稚園で購入。会堂脇の小室に設置される。「今後ここが盛んな活動が予想される伝道文書発行の印刷所となる」、と天野師は牧会通信の中で語っている。

<sup>6</sup> 週報(1981/06/14、1982/01/10)

<sup>7</sup> 週報(1985/10/06)

<sup>8</sup> 週報(1993/06/13)

<sup>9</sup> 週報(2011/03/27)